



わきみず

正月号

発行所
普門山
林泉寺

永代供養合葬墓
「慈照」完成!!

謹賀新年



本来なら、先祖代々のお墓はその代の家族が守って継承して行くものであるとされてきました。出来ることなら、ずっと守っていききたいと思うし、看てもらいたいと思ってもその気持ちはあると思います。

しかし、核家族化 少子化 子供が先祖代々の土地を出て新しい土地での生活、というライフスタイルなど昔と今とでは生活も考えも変わってきています。

その時代の変化に対応し、亡くなったときの不安悩み心配を解決できるのが「永代供養塔」です。

「慈照」と名づけました。皆さんが、辛く、悲しいどんな時でも慈しみ、常に見守り、深い愛情を掛けているという意味です。

考えていた「考えなければいけないと思う」「将来が不安だ」等のお悩みのある方は、是非、お寺まで相談、お問い合わせしていただければと思います。

申込書、使用規約等書類が出来ましたので、申し込まれる方は、「一報下されば」と思っています。

※ 個人情報保護法により守られます。



「お知らせ」

今まで、普段の年回供養は本堂で行っておりましたが、今年から冬期間は、法事の時に本堂を並べていた部屋で行う事となりましたのでご理解、ご協力をお願いいたします。

※ ストーブでのやけど、事故等には十分注意して頂きたいと思っております。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、皆さまのご厚情を賜りましたことを、篤く御礼申し上げます。今年一年も、檀信徒の皆さまと一歩一歩、歩んでまいりたいと思っております。

「一歩一歩」といえば「百尺竿頭進一歩」という禅語があります。百尺の竿の頂点に達したとしても、そこからさらに一歩を進める勇気をもちましょう、といった意味です。これは、修行してさとりを得たとしてもまだ修行が続くこと、その場に満足せず、さらに精進することを示したことでありますが、禅や仏教に限らず、学ぶことに終わりは無いといえるのではないのでしょうか。

昨今では、「生涯学習」ということもいわれるようになりました。「学習」「勉強」というと堅苦しいイメージがありますが、「街の様子が変わった」「道端に花が咲いていた」「本で知らないことばを見かけた」というように、常に新しいことに目を向けて過ごすことも、日々の学びといえるのではないのでしょうか。

昨日の自分より、少しだけ新しい自分へ。皆さまの一歩一歩がより充実することを心より祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

平成三十一年 元旦

曹洞宗 普門山 林泉寺

住職 飯原啓誠 合掌

